

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 共友会	代表者	岩尾 貢	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で暮らし続けることを大切に「ケアの流れを変える支援」「人生の最後まで寄り添う支援」「共生型サービスの実施」を行っている。 生きがいの持てる活動づくりとして「就労等の日中活動支援」「若年性認知症の方への支援」「高齢障害者支援」を実施している。 相談支援の拠点づくりとして「地域の方が気軽に立ち寄れる場」「誰もが相談できる場」を作っている。
事業所名	小規模多機能ホーム やたの	管理者	佐野 正人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	4	1	4	1	1	2	0	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> ①家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。 ・家族を交えてのカンファレンスの開催 ・家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。 ②本人の気持ちや意見を確認する機会を作り、ライフサポートプランの目標に反映させる。 ・本人を交えてのカンファレンスの開催 ・プラン変更、作成前に時間を持ち、本人の意向や「～したい」ことを毎回、確認する。 ③圏域の高齢者総合相談センターとの関係を作る。 ・毎月1回の通信を持参する。 ・持参した時に情報交換を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ①本人を交えたカンファレンスの実施には取り組んでいるが、ご家族を交えてのカンファレンスの実施までには至っていないケースが多い。コロナの影響もあり、家族同士や地域の方を交えての交流企画までの立案ができなかった。 ②「～したい」という希望が伝えられる方については積極的にサービスにつなげているが、スタッフ主導で行っていることも多く、利用者個々の「～したい」の支援までには至っていない場合もある。 利用者一人ひとりの「～したいことを集める工夫」や「したいことの実現」に向けての話し合いも十分に持っていない。 ③令和4年度より圏域の高齢者総合相談センターが主催する地域ミニ会議に定期的に参加できている。それ以外に必要なに応じて関係機関や医療機関との会議を 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的、日常のケアについては職員の皆さんは「出来ている」という評価となっているが、一歩踏み込んで「その人がしたいこと」を汲み取ることやその支援という部分が「出来ていない」と評価されている方が多いように感じた。本人と話をして聞き取る時間を持つことは大変だと思うが実践に向けて取り組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①本人の気持ちや意見を確認する機会を作り、ライフサポートプランの目標に反映させる。 ・プラン変更、作成前に時間を持ち、本人の意向や「～したい」ことを毎回、確認する。 ・普段の記録の目的やポイントをスタッフ間で共有し、ライフサポートプランと連動できている体制を整える。 ②家族が意見や要望が伝えやすい関係及び連携を深めるために、家族と交流できる機会を増やす。 ・家族を交えてのカンファレンスの開催 ・家族と職員及び家族同士が交流できる企画を検討する。企画によって地域の方も交えて開催できないかを検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議等への参加 	<p>実施している。オンラインを活用した情報交換や電話での情報交換も積極的に行っている。</p>		
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>地域の方など、誰でも気軽に立ち寄りたいたいと感じる環境づくり、雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で話し合を持ち、外観や室内のしつらえの見直しやコンセプトを考え、それに応じたしつらえ、環境づくりを行う。 ・自動販売機等の再設置や天候が良い時に利用者と一緒にテラスで過ごす等、テラスが活用できている状況を作る。 ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外観やしつらえの見直し、立ち寄りたいたい雰囲気を作るための話し合いは十分に持っていない。環境整備の担当職員を定めていたが、その職員との連携も不十分であった。事業所の外にある花壇は地域の方が世話や季節に応じた花の植え替えを行ってくれている。 ・自動販売機を再設置したことで地域の方が利用される様子が見られる。地域の方がテラス席を利用される様子までは見られないが、天気の良い日は利用者と職員がその場所でお茶をするなどの様子がある。 ・玄関周りが乱雑になっている状況やしつらえが不十分な状況がある。整理整頓やしつらえを積極的に整えるなどの意識を統一していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気はいい。 ・グループホームの面会室を新たに整備され、小規模の方もそちらを利用している。コロナ禍の中で工夫しながら面会する機会を作っていることは素晴らしいことだと思う。 ・外観も綺麗で、中に入っても温かい雰囲気を感じる。 ・玄関は鍵がかかかっておらず、開放的に感じるが、逆に利用者が一人で外に出るなどの不安を感じてしまう。 ・(不審者対策として) 来訪者へのセンサー等の設備や対策も必要なのではないか。 	<p>地域の方など、誰でも気軽に立ち寄りたいたいと感じる環境づくり、雰囲気づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当職員を決め、その職員を中心に、職員間で話し合を持ち、外観や室内のしつらえの見直しやコンセプトを考え、それに応じたしつらえ、環境づくりを行う。 ・天候が良い時に利用者と一緒にテラスで過ごす、地域の方と一緒にお茶をする等、テラスが活用できている状況を作る。 ・玄関周りの整理整頓、季節感が感じられる装飾や花等を飾る。 ・不審者対策も併せて検討していく。
C. 事業所と地域のかかわり	<p>①地域の方との関わりが持てるように、地域の方に事業所のこと、取り組んでいることを知ってもらう工夫、機会を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に作成している通信を関係ある場所や人に配布する。 ・いきいきサロンに参加されている方に事業所の通信や事業所で行う行事の案内を配布する。 ・法人ホームページを活用し、 	<p>①事業所で作成している通信を定期的に地域の人や関係場所に配布しており、活動や取り組みを伝える機会となっている。それ以外のホームページを活用することや事業所で毎週木曜日に実施している「ものづくり活動」を地域の方に案内するまでは行っていない。</p> <p>②通信に地域の相談を受け付ける案内を入れて、配布している。地域の方が気軽に相談できるまで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は地域の方にしっかりあいさつ出来ている。 ・(グループホームからの) 在宅復帰時に地域の方を交えた会議を開催してくれたり、自宅に戻った後も近所の方や小規模多機能の協力が非常に助かっています。皆さん声をかけてくれたり、心配なことがあれば家族に連絡してくれるのでありがたいです。 	<p>①地域の方との関わりが持てるように、地域の方に事業所のことや取り組んでいることを知ってもらう工夫、機会を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より事業所の取り組みなどを知ってもらうために、通信の内容を充実させ、配布を継続していく。町内の回覧板も活用する。 ・法人ホームページを活用し、事業所の活動や取り組みを紹介する。 <p>②地域の方が気軽に相談できる</p>

	<p>事業所の活動や取り組みを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所で行っている活動や企画を地域の方に案内し、事業所に来ていただく機会を作る。 <p>②地域の方が気軽に相談できる場所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方と地域の情報交換を行う。 ・通信等を活用し、相談の案内を行う。 	<p>の関係性はできていないが、利用されている方や近所の方が友人や知人で気になる方がいると相談があり、令和3年4月から令和5年2月の間に4件の地域の相談を受け付けている。小規模多機能への利用につなげたケースや宅配弁当の支援につなげたケースがある。</p> <p>民生委員とは運営推進会議の資料を配布する時などを利用して、定期的に情報交換できている。</p>		<p>場所となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方と関係を作り、地域の情報交換を行う。 ・事業所で行っている「ものづくり活動」の時間を地域の方との交流の場となるように、地域の方の声を参考に、参加しやすい場を作る。 <p>その場を活用し、地域の困りごとの確認や地域の情報を得ていく。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に参加し、地域の方との関係を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。 ・地域の行事等の情報を得て、参加していく。 <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加できる、社会資源を活用できる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの軒下マップを作成し、個々の社会資源やその関係を知る。 ・本人の暮らしを考える時に、軒下マップや本人・家族の話から支えてくれる方を見つけ、その方に意見を得る。 	<p>①感染対策をしながらどのようにしたら関わりが持てるのかを考え、事業所がある地域で開催されているいきいきサロンに参加できている。</p> <p>また、利用者個々の支援として、その方が住んでいる地域で開催されているいきいきサロンに継続して参加できるように支援できている。サロンが休みの日などは通いサービスを変更するなど柔軟に対応している。</p> <p>②コロナ禍で地域に出向いての活動ができない時期だからこそ、情報を集め、軒下マップを作成し、取り組みが出来るようになった時に、その情報を活用できるように作成に取り組んでいる。</p> <p>ただ、情報収集する手段が十分でないこともあり、得られている情報量が少ない。利用者によって作成内容に差が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、まだ、地域とのかかわりは十分に取れていないと思う。以前、矢田野太鼓がホームを訪問し、子供たちが太鼓を披露している様子を見たことがある。 ・十人十色で皆さん考え方が違う為、それを知るための取り組みを考えていくとよいのではないかと。 	<p>①事業所がある地域で開催される行事やサロン等に参加し、地域の方との関係を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の買い物などを利用者と一緒に出かける。 ・地域の行事等の情報を得て、参加していく。 <p>②利用者個々の地域で行われている行事に参加できる、社会資源を活用できる支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人との関わりの場面やカンファレンスの場面で軒下マップを持参し、得られた情報はすぐに軒下マップに記載していく。 ・一人ひとりの軒下マップを参考に、記載されている人や場所などの関係を知り、支援につなげられることがないか本人や家族と一緒に考える時間を持つ。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>①運営推進会議が開催できない時期は、資料を送付後に、電話や訪問などで積極的に意見を確認できる環境を整える。 運営推進会議の開催が可能になった時は地域の情報や相談を丁寧に確認し、事業所として出来ることを一緒に考えてもらえる関係を作る。</p> <p>②会議に職員が交代で参加し、地域の方と交流できる、相談できる関係づくりを行う。参加していない職員には、議事録の回覧やミーティングで会議の内容を報告するなど、どのようなことが話し合われたのかが分かるための環境を整える。</p>	<p>①運営推進会議を書面で代替している状況であり、令和4年5月から意見シートを同封して意見がもらえる環境を作っている。また、配布している資料の取り組みについて、イメージを持っていただけるように、行事や企画を行っている時の様子を具体的に記載している。また、写真を入れた通信も同封している。</p> <p>②運営推進会議が定期的開催できておらず、職員が交代で参加できている状況には至っていない。12月に開催した時は前回と違う職員が参加している。</p>	<p>・運営推進会議のように地域の方が集まってくれるということは、普段からの関係づくりがあるからこそだと感じる。</p>	<p>①運営推進会議の開催が可能になった時は地域の情報や相談を丁寧に確認する。 地域のことや事業所のことを一緒に考えてもらえる関係を作る。</p> <p>②地域の方と顔がつながるように、会議に職員が交代で参加する。 職員全員が会議の中でどのようなことが話し合われたのかが知ることができるよう、議事録の回覧やミーティングで会議の内容を報告する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>①スタッフの防災意識や災害発生時の対応力を高めることを目的に、実際に動ける訓練を定期的開催する。</p> <p>②地域の方に事業所のことやどのような利用者が利用されているのかを知っていただくために、地域の防災士等と防災や災害について話し合う機会や訓練に参加してもらう機会を作る。</p>	<p>①7月に地震が起き、その後火災が発生したという想定で訓練を行った。コロナ禍ということもあり、地域の方の参加までは行っていない。令和3年度は9月（火災訓練）、1月（火災訓練）に実施した。 夜間の火災対応の訓練は行っているが、地震や水害の訓練が行っていない。</p> <p>②地域の防災士との連携や話しをする機会は持つことが出来なかった。また、訓練自体も実践的な訓練までの取り組みや訓練を参考にマニュアルを見直すまでの取り組みは行っていない。 災害が発生した時に、事業所が所在する地域だけでなく小松市とどのように連携し、情報を共</p>	<p>・水害などの災害時に登録されている利用者の状況の確認や避難が必要な状況時の支援方法について考えて欲しい。</p> <p>・防災について矢田野地区のいきいき協議会が母体となっている防災士会や矢田野校下防災組織があり、避難訓練の時に要介護者をどのように避難させたらよいかという介護の部分について知りたいと思っているため、その部分に協力していくこともよいのではないかな。</p> <p>・実際に災害が起き、指定された避難所に避難した時に介護が必要な方等で、そこで生活が難しいと判断した時に（寝の場所の確保、介護の支援が受けられるかなど）、事業所として相談を受けることが</p>	<p>①スタッフの防災意識や災害発生時の対応力を高めることを目的に、実際に動ける訓練を定期的開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災と災害の両方の訓練を実施する。 ・訓練とマニュアルが連動させ、動けるマニュアルを作成する。 <p>②地域の方に事業所のことやどのような利用者が利用されているのかを知っていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災士や校下の防災組織と災害について話し合う機会や訓練に参加してもらう機会を作る。 ・災害が発生した時に地域の困りごとを確認し、事業所として何が出来るのかを検討する。

		<p>有していくのが課題となっている。</p> <p>事業所が災害時に大きな被害を受けていない場合に、発電機も備えているため、近隣の方の一時的な避難所としての機能を果たすことが可能なかを検討している。そのことについて地域の方と相談するまでには至っていない。</p> <p>災害時に必要となる物品の確認や備蓄品の定期的な確認は行えている。</p>	<p>できる体制を整えて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none">・協力体制を確保するために、災害が発生した時の小松市や事業所間の連絡網や夜間に災害が発生した時の対応方法を明確にする必要があるのではないか。	
--	--	--	---	--

